

さらに魅力ある教育・研究のための大学図書館に

図書館長・名古屋図書館長

塩山正純

(国際コミュニケーション学部)

NAGOYA



2022年10月からの2年間、三期目として引き続き図書館長をつとめることになりました国際コミュニケーション学部の塩山正純です。どうぞ宜しくお願いします。

わたくしの研究の専門分野は中国語学で、特に近代西洋人による中国語研究史について勉強しております。この八月、九月もオックスフォードや大英、ランベス、バチカンの各図書館を調査で訪れましたが、以前にも紹介したように、彼の地では、資料は使われてこそ活きる、という考えが図書館のあり方として共有されています。

愛知大学図書館のホスピタリティは、欧米の先進的な図書館にも引けを取りませんが、本学図書館の学術資源を利用者にとってより身近な存在にするための取組みも欠かせません。目下、所蔵貴重資料のデジタル化や世界と連携・発信する漢籍プラットフォームのための約一万点の漢籍資料の目録整理プロジェクトが順調に進捗しています。豊橋校舎のリニューアルも現在進行形で進捗しており、数年後には書庫の充実化で愛知大学図書館が所蔵するほぼ全ての資料を図書館のなかで実際に手に取って利用できる環境が整います。

愛知大学創立の地である豊橋図書館の伝統と蓄積、そして名古屋(車道)図書館の都市型キャンパスの特性を活かした機能性という両者の特性を活かして、豊橋、名古屋の両校舎の図書館が愛知大学の「学び」のハブとして有機的に機能することが求められると思います。

今世紀に入って二十年あまり、学びのスタイルが刻々と変化し、直近三年のコロナ禍ではさらに劇的に変化しました。それでも大学図書館が大学での学びのハブとして、リアルとバーチャル、デジタルとアナログの両面で必要とされるサービスを提供できるように、良い伝統は残しつつ、われわれ図書館サービスに関わる者、責任を持つ者が、自分の狭い世界での経験だけに捉われることなく、変えるべきところは変え、工夫を重ねていきます。

もし大学のキャンパスに図書館が無かったら、それはなんとも間の抜けた空間です。図書館も、いくら建物が立派でも、そこに利用者が居なければ無味乾燥なただの箱です。ひとが集い学ぶ、活きた場所にするため、皆さんとともに「なぜ大学に図書館があるのか」という根本を考えながら、魅力的な学びの空間をつくるための工夫をしていきたいと思っています。豊橋と名古屋、ふたつでひとつの愛大図書館というスタンスで、愛知大学図書館が利用者にとってより快適な学びの場として機能するように、もう2年間つづいて旗振り役をつとめてまいります。

豊橋図書館長

鄭智允

(地域政策学部)

TOYOHASHI



このたび愛知大学豊橋図書館長を拝命いたしました、地域政策学部の鄭智允です。2022年10月から2年間、どうぞ宜しくお願いします。

大学図書館という施設は、大学にとって、その教育と研究の水準および地域との関わり方を内外に示すもっとも象徴的かつ中心的なものの一つです。そういった使命を負う愛知大学の図書館は、学生をはじめとする学内構成員や地域社会に身近な存在にあるために、保有資料の保存や関連施設との連携を推進し、また利便性を向上させる図る努力をしてまいりました。

豊橋校舎の図書館をめぐっては、2020年に再整備の計画が正式に決まりました。現在、新しい図書館の建築に向けて基本設計が完了し、実施設計の段階に移っています。また、新棟建築に伴う図書館資料の引っ越し業務については、図書館や研究所蔵および外部書庫からの図書・雑誌その他の移動などに関する具体的なタイムスケジュールが策定されたところです。さらに、本年度は2023年度からの豊橋・名古屋図書館両館の共通の委託業者の選定があります。その一方で、現在図書館は学内外の事情により変革の境に置かれていて、より大局的な視点からそのあり方を考える必要に迫られています。2019年12月から今日に至るまで社会全体を未曾有の混乱をもたらしているコロナ禍は、大学図書館の運営にも少なからぬ影響をもたらしています。感染リスクを抑えることと内外の利用者に開かれた大学図書館であることとをいかに両立するかなど、ウィズ/アフター・コロナ時代に大学図書館としてどのように向き合っていくかも喫緊の課題です。また円安による洋書・書籍の購入のあり方も問われています。

このように社会が流動するとき、本質を見失わないことが重要です。愛知大学図書館規程は、図書館の目的について「研究及び教育に必要な図書その他の資料を収集・管理し、本大学の教職員、学生及び図書館長が許可した者の利用に供すること」と定めています。図書館本来の目的と役割に基づき、愛知大学の図書館を利用するすべての人が図書館という知の空間を快適に感じることを目指し、2年間の任務を果たしていこうと考えています。

以上のような図書館のあり方に関する重要な時期における豊橋図書館長の任は身に余る重責ですが、是非とも大学構成員の皆様のご協力をいただきながら職務を全うしたく存じます。宜しくお願いします。